

防衛力の変革の方向性③

継戦能力^(P1)／施設の強靱化^(P5)／衛生機能^(P9)

令和 8 年 4 月
防 衛 省

「継戦能力」の確保

継戦能力の重要性

ロシアによるウクライナ侵略は4年以上の長期戦

・武力侵攻には必ず「相手」が存在。仮に我が国があらゆる手を尽くし、早期終結を試みたとしても、我が国へ侵攻する「相手」が拒否した場合、長期化は避けられないのが現実。

- ▶ 我が国に侵攻しようとする「相手」に、「事態を長期化させれば侵攻が成功する」と思わせる隙を与えてはならない。

必要な物資を安定的に確保し、部隊に供給できる体制が不可欠

・ウクライナは、約2千発／日の砲弾を消費(※)。あらゆる種類の装備や弾薬等が大量消費される中、必要物資の事前確保、長期戦を見据えた安定供給が重要。

・四面環海であり、多くの島嶼を有する我が国にとって、自衛隊の部隊・装備品・補給物資等を長期にわたって迅速かつ確実に輸送することが重要。

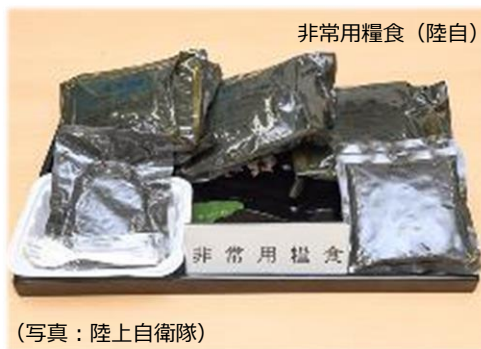


(※)2024年3月時点

これまでの取り組み状況

「持続性・強靱性」の取組

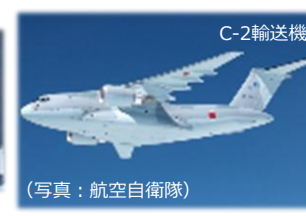
- ・早期かつ安定的に弾薬等を量産するべく、国内製造態勢の拡充等を後押し。
- ・弾薬の維持整備体制を強化。
- ・燃料タンクの新規整備及び民間燃料タンクの借り上げを実施。
- ・糧食・被服の必要数量を確保。



各輸送アセットの整備状況(※)

- ・自衛隊海上輸送群の新編
中型輸送艦×2隻、小型輸送艦×4隻、輸送艇×4隻
- ・PFI船舶8隻態勢の整備
旅客船×2隻、貨物船等×4隻、コンテナ船×2隻
- ・航空輸送力の各種整備
C-130H×13機、C-2×20機、
CH-47J×15機、KC-130H×3機、
KC-46A×12機、KC-767×4機

(※)令和8年度予算までの計上状況



▶ 継戦能力の観点を踏まえ、取組を更に強化する必要

検討の方向性

抑止力・対処力を向上させるためにも、長期戦に対応できる十分な継戦能力を確保

主な 検討事項

- 自衛隊の作戦遂行に不可欠な弾薬等の備蓄
- 生産・調達基盤の強化
- 海上輸送力を中心とした輸送体制の強化
- 駐屯地・基地等の機能を維持するための取組
- 衛生機能の強化





施設の強靱化

検討の方向性

- 防衛力の変革にあたって、新しい戦い方に対応していくためには、運用に不可欠かつ活動の基盤となる防衛施設を、適正な契約の下で、より迅速に、より多く整備していくことが重要
- 装備品の調達に比べ、一般に防衛施設の整備には時間を要することが課題
- そのため、特に、新しい戦い方に対応するための施設整備については、迅速に進めていくことが求められる

新しい戦い方に対応するための取組みの強化

- スタンド・オフ防衛能力、無人アセット防衛能力、太平洋防衛などの各種検討と連携した施設整備を促進
- 施設の堅牢化、地下化、分散化などにより、被害を局限する消極防御の機能を強化
- 長期戦への対応の一環としての施設整備（保管庫や燃料タンクなどの物資集積機能など）
- 施設管理や基地業務等に部外力を積極的に活用

従来取組みの継続

- 隊舎・庁舎等の老朽施設の建替え・改修（生活勤務環境改善）
- 火薬庫の増設
- 部隊改編や装備品取得と連動した施設整備

主な
検討事項

各取組みの具体的な方向性(強化する取組み)

新しい戦い方に対応するための取組みの強化

➤ 新たな課題に連動した施設整備

スタンド・オフ防衛能力、無人アセット防衛能力、太平洋防衛などの各種検討と連携した施設整備を実施

➤ 消極防御の機能強化

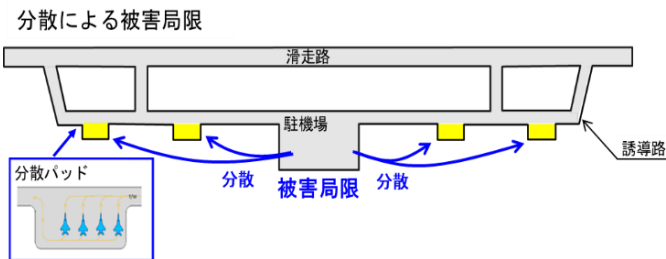
各駐屯地・基地の実情や各装備品の特性等を踏まえ、施設の堅牢化、地下化、分散化などにより、被害を局限する消極防御の機能を強化

➤ 長期戦への対応

所在部隊に加えて、増援部隊を収容可能な冗長性を確保するほか、保管庫や燃料タンクといった各種物資の集積施設等を確保

➤ 施設管理や基地業務等に部外力を積極的に活用

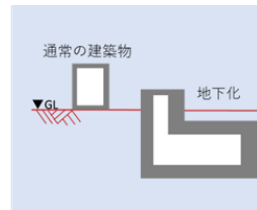
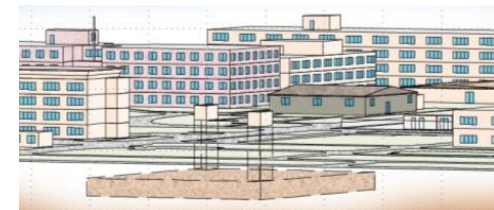
分散パッドの整備 (イメージ)



航空機えん体の整備



主要司令部等の地下化 (イメージ)



各取組みの具体的な方向性(継続する取組み)

従来の取組みの継続

➤ 老朽施設の更新

全国の駐屯地・基地の老朽施設について、災害対策や自衛官の生活勤務環境の改善の観点から、建替えや改修といった老朽施設の更新を着実に進捗させる必要

➤ 火薬庫の増設

増加する弾薬の保管所要に対応するため、火薬庫の増設を推進する必要
また、火薬庫の標準化を図り、コスト削減及びリードタイム縮減を図る

➤ 部隊改編や装備品取得と連動した施設整備

部隊改編や装備品取得に係るスケジュールを踏まえた施設整備を着実に実施

老朽施設の更新 (イメージ)



生活勤務環境の改善 (イメージ)



プライバシーの重視
落ち着いた環境 等



火薬庫の整備



地上式火薬庫



地中式火薬庫



衛生機能の強化

「衛生機能の強化」における基本的な考え方

これまでの整備状況

現在の防衛力整備計画に基づき、南西地域における衛生機能の強化として、自衛隊那覇病院の建替えに伴う同病院の病床の増加、診療科の増加等を図るとともに、第一線から最終後送先に至るまでのシームレスな医療・後送体制として、DCS (Damage Control Surgery) 教育の開始、自衛隊において血液製剤を自律的に確保・備蓄する態勢を構築。

各種事態への対処や国内外における多様な任務に対応し得るよう、各自衛隊で共通する衛生機能等を一元化して統合的な運用を推進するとともに、防衛医科大学校も含めた自衛隊衛生の総力を結集できる態勢を構築し、戦傷医療能力向上のための抜本的改革を推進する。

今後の方向性

ウクライナ侵略の教訓から得られる継戦能力確保の必要性等の観点から

- ・ 長期的な視点を踏まえた衛生資器材（医薬品及び衛生物品）、病床数及び医療人材の確保が急務。
- ・ 有事においては、急性ストレス障害（ASD）及び心的外傷後ストレス障害（PTSD）の発生が増加することや、兵器の能力向上による外傷性脳損傷や四肢の障害による運動器障害が増加することから身体的リハビリテーションの需要が高まると予想されるため、防衛省・自衛隊として統一的な計画・実施プロセスの整備が必要。

次期計画に向けて
以下の実現に向けた検討を本格化

- ・ **衛生資器材の確保**
- ・ **病床数、医療人材の確保**
- ・ **有事ストレス障害に対する体制の整備**
- ・ **身体リハビリテーション体制の整備**

現状とあるべき姿

Before



① 衛生資器材の確保

- ・ 長期的な視点を踏まえた**確保の強化が必要**
- ・ **医薬品の原材料等の輸入先を多様化することが必要**



② 病床数・医療人材の確保

- ・ 長期的な視点を踏まえ、現在自衛隊病院等で保有する病床数及び医療従事者以上に病床や医療従事者を確保していくことが必要



③ 有事ストレス障害に対する体制の整備

- ・ **有事を想定した政策及び医療体制の整備を進めていくことが必要**



④ 身体リハビリテーション体制の整備

- ・ 防衛省・自衛隊として**リハビリテーションに関する統一的な計画・実施プロセスを充実**させていくことが必要

After



① 衛生資器材の確保

- ・ 長期的な視点を踏まえた**確保策を検討し、事態対処に対応できる体制**
- ・ 関係機関と連携し、**国内におけるサプライチェーンの確保**



② 病床数・医療人材の確保

- ・ 長期的な視点を踏まえ、**必要な病床数を確保**
- ・ 長期的な視点を踏まえ、**協力可能な医療人材の確保**



③ 有事ストレス障害に対する体制の整備

- ・ 隊員自らのセルフケアや上司による**ケア、継続的な教育体制**
- ・ **指揮官への教育機会の制度**
- ・ **有事に活動するメンタルチームの編成と、運用体制**
- ・ **有事ストレス障害の調査・研究、人材育成の体制**



④ 身体リハビリテーション体制の整備

- ・ **専門チームの編成及び育成**
- ・ **早期介入プロトコル等の作成**
- ・ **患者への専門的医療の提供や部外医療機関との連携**
- ・ **職務復帰支援、ピア・サポート（負傷隊員やその家族の相談体制）**

検討の方向性

隊員の生命及び身体を守るため、衛生資器材及び医療体制の整備並びに、有事における急性ストレス障害への対応及びリハビリテーション体制の確立について、重要な基盤として位置付け、重点的に検討を進める。あわせて、衛生分野における同盟国及び同志国との協力を推進する。

主な 検討事項

■衛生資器材

- ・必要となる衛生資器材の確保策

■医療体制

- ・長期的な視点を踏まえた医療体制の構築のため、部外の協力を踏まえた体制

■有事ストレス障害

- ・PTSDを発症した隊員への対応の充実や、事態の収束後或いは退職後にPTSDを発症した場合の対応

■リハビリテーション

- ・障害を負った隊員の職場復帰、退職を余儀なくされた隊員の社会復帰

